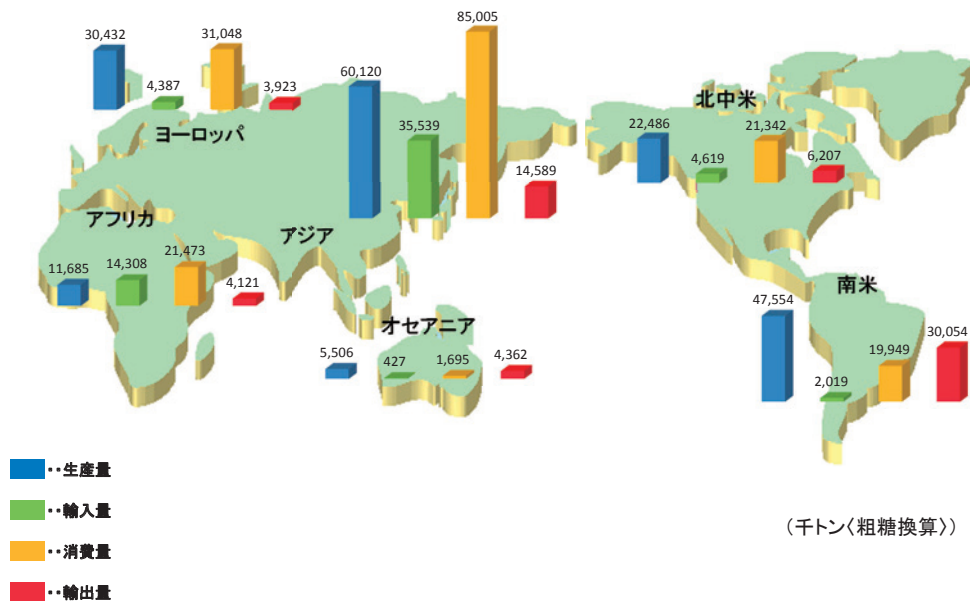


砂糖の国際需給

調査情報部 佐々木 由花

1. 世界の砂糖需給（2017年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2016/17年度予測値）



資料：Agra CEAS Consulting※「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,June 2017」
 (※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社)
 注1：年度は2016年10月～翌9月。
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン (粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1988/89	37,029	104,469	26,514	107,025	25,510	35,477	33.1
1993/94	38,687	111,631	31,183	112,637	32,845	36,020	32.0
1998/99	47,513	135,418	39,767	125,645	42,435	54,618	43.5
2003/04	66,547	143,844	46,336	141,913	49,194	65,620	46.2
2008/09	71,399	151,603	49,849	161,832	50,974	60,045	37.1
2012/13	64,157	184,162	59,150	171,679	61,545	74,245	43.2
2013/14	74,245	181,494	58,461	175,710	59,205	79,286	45.1
2014/15	79,286	180,704	58,414	178,554	59,538	80,313	45.0
2015/16	80,313	174,636	63,493	179,757	66,414	72,271	40.2
2016/17 (2017年3月予測)	71,005	177,958	58,575	181,009	61,027	65,503	36.2
2016/17 (2017年6月予測)	72,271	177,783	61,300	180,512	63,257	67,586	37.4

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, June 2017」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：2013/14年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度は予測値である。
 注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）である。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2017年10月号の掲載予定となります。直近の内容は2017年7月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001527.html

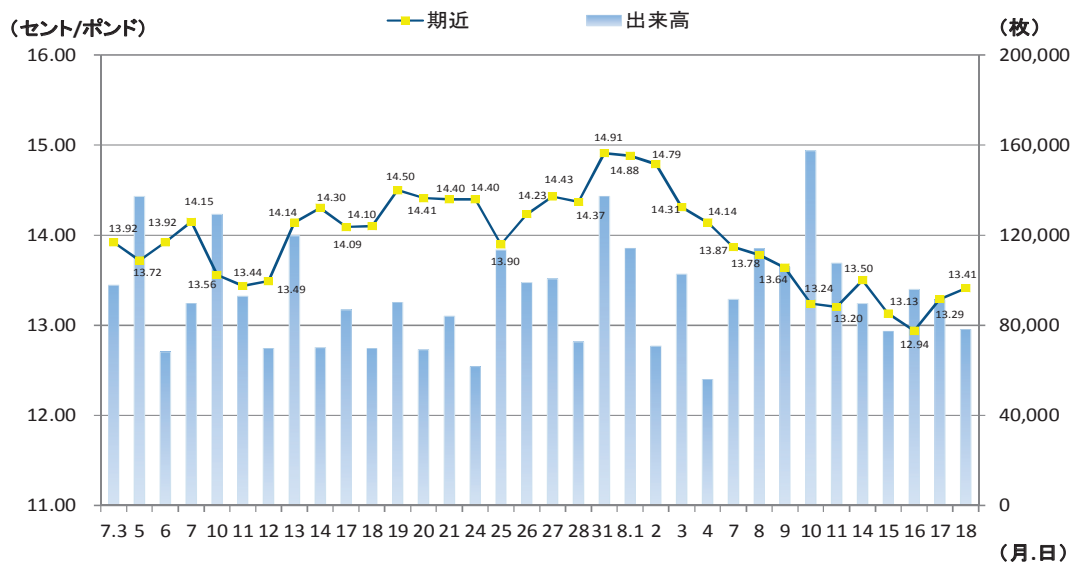
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001528.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き（7/3～8/18）

～おおむね1ポンド当たり13～14セント台で推移も、増産予測などから同12.94セントまで下落～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）

ニューヨーク粗糖先物相場（期近10月限）の2017年7月の推移を見ると、11日には、インドが砂糖の輸入関税を引き上げたことを受け、1ポンド当たり13.44セントに下落したものの、ブラジル通貨リアルが米ドルに対し高値で推移したことに伴い、13日には同14.14セントに反発した。14日以降、ブラジルのサトウキビ生産地での霜害が懸念されたことなどから19日は同14.50セントの値を付け、その後も同14セント台で推移した。しかし、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）^{（注）}が発表した同国中南部のサトウキビ圧搾実績が市場の予想を上回ったことなどから、25日には同13.90セントへ下落した。その後、相場は、ブラジルのエタノール税率引き下げ報道を受け、エタノール生産が増加するとの見込みから反発し、31日には同14.91セントと2カ月ぶりの高値を付けた。

8月に入ると、相場は、戻り売りが入り一転して続落し、7日には同13.87セントと同13セント台

に値を下げた。その後も、ブラジルのサトウキビ圧搾量が増加するとの予測や、米国と北朝鮮が対決姿勢を強める中で取引市場全体に不透明要因が増大したことなどから、11日には同13.20セントまで続落した。14日には、ブラジルのサトウキビ生産地での降雨予報を受け、同地域の干ばつの影響による品質不良への懸念が一服したことから、相場は同13.50セントと、10日ぶりに反発した。その後、ブラジルでの一段の生産増加が見込まれたことから続落し、16日には6月以来の安値となる同12.94セントまで落ち込んだが、インドのモンスーン被害や、ブラジルの一部地域での洪水の発生などを受け、サトウキビの収穫が遅れる可能性が見込まれたため、17日には、同13.29セントと反発し、18日には同13.41セントまで上伸した。

（注）ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2017年8月時点予測）

ブラジル

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：884万ha（前年度比2.3%減）

生産量：6億4763万トン（同1.5%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：4080万トン（同0.7%増）

輸出量：2870万トン（同0.1%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量はともにかなり増加の見込み

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する大手民間調査会社）の2017年8月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2016/17砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、天候不順などにより前年度に収穫しなかったものも含まれたため、905万ヘクタール（前年度比4.6%増）とやや増加が見込まれている。しかし、サトウキビの新植が進まず単収が低下したため、生産量は6億5718万トン（同1.3%減）とわずかな減少が見込まれている（表2）。

一方、砂糖生産量は、国際砂糖価格の上昇により、製糖企業がサトウキビを砂糖へ仕向ける割合を増やしたことに加え、製糖歩留まりが向上していることなどから、4053万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同15.2%増）とかなりの増加が見込まれている。こうした増産見込みに伴い、輸出量は過去最高の2874万トン（同14.4%増）とかなりの増加が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量、輸出量ともに前年度並みの見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は、884万ヘクタール（前年度比2.3%減）とわずかに減少す

るものの、生産量は単収の向上から、6億4763万トン（同1.5%減）とわずかな減少にとどまると見込まれている。

砂糖生産量も、4080万トン（同0.7%増）と前年度並みと見込まれている。これは、サトウキビの砂糖への仕向け割合の増加に加え、製糖歩留まりの向上が予想されているためである。輸出量については、国際的な砂糖の輸入需要の緩やかな減少に伴い、2870万トン（同0.1%減）と見込まれている。

なお、UNICAが発表した2017年4～7月の生産実績報告によると、中南部地域のサトウキビ圧搾量は2億9733万トン（前年同期比4.7%減）とやや減少したものの、砂糖生産量は1757万トン（同3.5%増）とやや増加した。同報告によると、エタノール生産量は、1157万キロリットル（同10.1%減）とかなり減少した。輸出量も含めたエタノールの販売量は、809万キロリットル（同13.4%減）となった。このうち、含水エタノール^{（注）}の国内販売量は、ブラジル国営石油公社ペトロブラスがガソリン平均卸売価格を引き下げ、含水エタノールのガソリンに対する優位性が低下していることから、436万キロリットル（同17.5%減）と大幅に減少した。石油・天然ガス・バイオ燃料監督庁（ANP）によると、7月の含水エタノール小売価格（サンパウロ州）は、1リットル当たり2.24リアル（81円〈7月末日TTS：1リアル＝36円〉）と前年同月と同水準であった一方、ガソリン小売価格は同3.33レア

ル（120円）と前年同月の3.44レアル（124円）に比べ、下落している。

国内のエタノール生産量の減少などにより、米国からのエタノール輸入量が急増している状況を受け、UNICAはエタノールの輸入関税の再導入を政府に要請しており、北東部の砂糖エタノール製造企業も国内産業の保護を政府に求めている。しかし、政府は、関税を再導入した場合、国内のエタノール価格が高騰し、世界のエタノール貿易に影響を与えることから、慎重に検討することとしている。

現地報道によると、政府は7月、燃料に対する社会負担税（PIS/Cofins）のうち、エタノールの税率を引き下げる一方で、ガソリンとディーゼル用燃料については税率を引き上げると発表した。これにより、ガソリンに対するエタノールの価格競争力が

高まるとともに、製糖企業がサトウキビのエタノールへの仕向け割合を増加させることで、砂糖の需給バランスが調整され、砂糖価格の安定が期待されている。また、一部報道では、政府は、バイオ燃料の需要拡大のため、ガソリンに対する燃料税（CIDE）について、2017年から2年連続で引き上げるとされている。

（注）自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

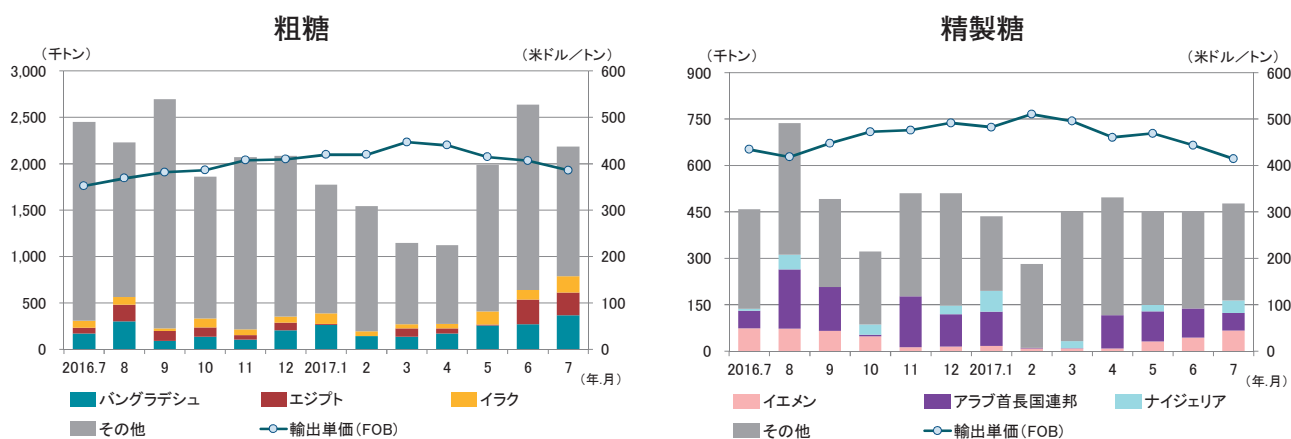
表2 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (7月予測)	2016/17 (8月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (7月予測)	2017/18 (8月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	8,811	9,004	8,655	9,049	9,049	4.6	8,839	8,839	▲ 2.3
サトウキビ生産量	658,822	634,767	665,586	657,184	657,184	▲ 1.3	647,626	647,626	▲ 1.5
砂糖	生産量	39,494	37,313	35,194	40,534	15.2	40,700	40,800	0.7
	輸入量	-	-	-	-	-	-	-	-
	消費量	12,640	12,400	11,800	11,700	▲ 0.8	11,800	11,900	1.7
	輸出量	27,053	24,666	25,124	28,740	14.4	28,700	28,700	▲ 0.1
	期末在庫量	2,296	2,543	813	906	11.5	1,106	1,106	22.1
	期末在庫率	18.2	20.5	6.9	7.7	12.4	9.4	9.3	20.0

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, August 2017」

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：474万ha（前年度比6.2%減）

生産量：3億3193万トン（同7.5%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：2210万トン（同19.3%減）

輸出量：202万トン（同50.9%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量ともに大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は474万ヘクタール（前年度比6.2%減）、生産量は3億3193万トン（同7.5%減）と、ともに干ばつの影響によりかなりの減少が見込まれている。さらに、砂糖生産量も、2210万トン（同19.3%減）と製糖歩留まりの低下により大幅な減少が見込まれている（表3）。インド砂糖製造協会（ISMA）が3月初旬に発表した見通しによると、1～2月にかけてマハラシュトラ州やカルナタカ州などで当初の予想以上に単収が低下していることから、同年度の砂糖生産量は、精製糖換算で2030万トンと見込まれている。

中央政府は、砂糖の減産により2015年末から国内の砂糖価格が高騰していることを受け、砂糖の輸出量を抑えることで価格の安定化を図るため、2016年6月中旬以降、砂糖の輸出（粗糖を輸入して6カ月以内に再輸出する精製糖や2500トンのオーガニックシュガーを除く）に対し、輸出関税（20%）を導入している。さらに、2017年4月中旬には、貿易業者に対する砂糖在庫量の上限の設定期限を2017年4月末から同年10月末まで延長することを公表した。これらにより、砂糖輸出量は、202万トン（同50.9%減）と大幅な減少が見込まれている。

一方、国際価格の下落や中央政府が先ごろ粗糖50万トンについて無税での輸入を許可^{（注）}したことにより、輸入粗糖を原料とする精製糖生産の利益が増加するとみられていることなどから、砂糖輸入

量は、310万トン（同62.9%増）と大幅に増加すると見込まれている。

現地報道によると、中央政府は新たに砂糖30万～50万トンについて25%の輸入関税率での追加輸入を許可することを検討している。背景には、9～10月にかけて、特に干ばつの被害が大きかった南部の砂糖在庫が不足するとの懸念があり、同措置が実施されれば、2016/17砂糖年度において2度目の輸入関税減免措置となる。一部報道では、南部の製糖企業が、新たに粗糖60万トンを無税で追加輸入するよう求めているが、これについては、中央政府は8月12日、予定していないことを明らかにしている。なお、ISMAは、砂糖の輸入増加による国産糖の需要の低下を懸念し、砂糖の輸入関税を現行の40%から60%まで引き上げるよう求めていたが、これに対し、中央政府は7月10日、ISMAの要求を下回る50%に引き上げることで応じている。

ISMAは7月中旬、6月の観測結果を基にした2017/18年度の生産予測を公表した。これによると、砂糖生産量は精製糖換算で2510万トン（同23.6%増）と大幅な増加が見込まれている。これは、主要生産地の多くで干ばつからの生産回復が見込まれるためである。州別に見ると、ウッタルプラデシュ州は995万トンと全体の4割を占め、マハラシュトラ州は740万トンと見込まれている。

（注）当該措置は、干ばつにより砂糖生産量が大幅に減少する中、消費量を下回ると見込まれること、また、マハラシュトラ州の製糖企業による再輸出用粗糖100万トンの輸入申請が行われたことなどを受けて実施されたものである。

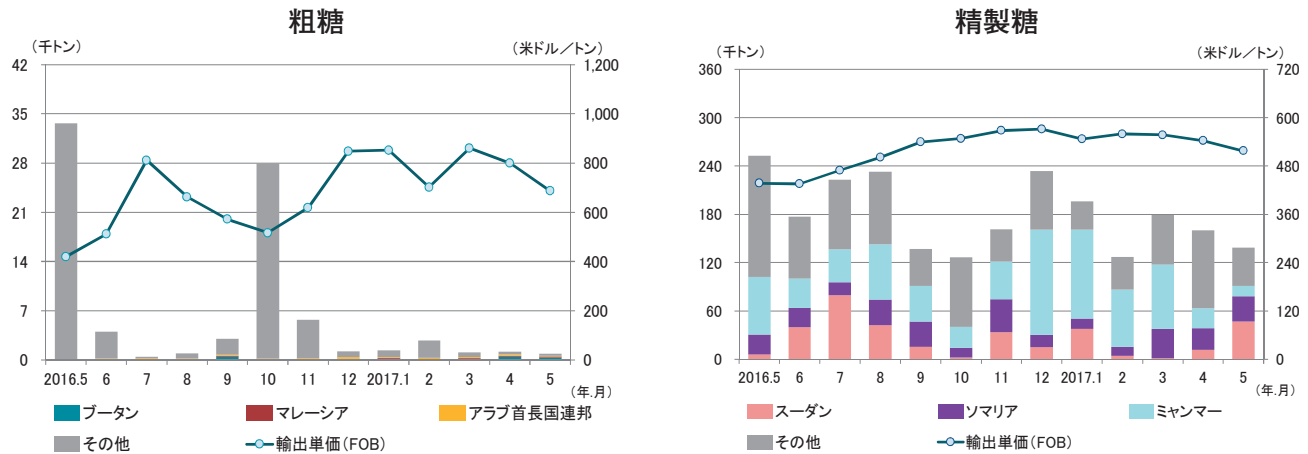
表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (7月予測)	2016/17 (8月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	5,060	5,060	5,055	4,739	4,739	▲ 6.2
サトウキビ生産量	341,200	362,333	358,891	331,926	331,926	▲ 7.5
砂糖	生産量	26,580	30,616	22,100	22,100	▲ 19.3
	輸入量	1,349	1,303	3,100	3,100	62.9
	消費量	26,295	27,842	27,011	26,304	▲ 2.6
	輸出量	2,742	2,608	4,105	2,016	▲ 50.9
	期末在庫量	8,223	9,692	7,851	4,732	▲ 39.7
	期末在庫率	31.3	34.8	29.1	18.0	▲ 38.1

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, August 2017」

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2016/17年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ・てん菜】

収穫面積：183万ha(前年度比10.0%増)・15万ha(同10.0%増)
生産量：1億2652万トン(同7.9%増)・771万トン(同5.0%増)

【砂糖(甘しゅ糖およびてん菜糖)】

生産量：1010万トン(同6.7%増)
輸入量：429万トン(同30.8%減)

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度(10月～翌9月)は、サトウキビについては、収穫面積が183万ヘクタール(前年度比10.0%増)、生産量が1億2652万トン(同7.9%増)と、ともにかなりの増加が見込まれている(表4)。これは、最大生産地域である広西チワ

ン族自治区や海南省における栽培面積の増加と良好な生育状況が要因である。

てん菜についても、収穫面積は15万ヘクタール(同10.0%増)とかなり増加し、生産量は771万トン(同5.0%増)とやや増加が予想されている。これは、主要生産地である内モンゴル自治区の増加などが要因である。これらにより、砂糖生産量は、

1010万トン（同6.7%増）とかなりの増加が見込まれている。

中国砂糖協会（CSA）が発表した2016/17年度の生産実績報告によると、砂糖生産量は精製糖換算で929万トン（同6.8%増）とかなり増加した（図3）。これは、サトウキビおよびてん菜の栽培面積拡大により、甘しゃ糖が824万トン（同5.0%増）、てん菜糖が105万トン（同23.2%増）と、ともに増加したことによる。

さらに、中央政府は2016年10月以降、入札により備蓄砂糖を国内企業へ売り渡しており、1月時点で合計約65万トンが市場に放出された。CSAは2016/17年度に200万トン程度、2017/18年度も同程度の備蓄砂糖の放出を見込んでいる。

こうした中、中央政府は5月22日、2016年9月から実施した砂糖の輸入先国によるダンピング疑惑の調査（注1）の結果を踏まえ、2017年5月22日から2020年5月21日までの3年間、WTO協定に基づく関税割当（194万トン、関税率15%）の枠外で輸入される砂糖の関税率を、現行の50%から95%まで引き上げることを公表した（注2）。このた

め、砂糖輸入量は、429万トン（同30.8%減）と大幅な減少が見込まれている。枠外関税率は、毎年度5%ずつ引き下げられる予定であるが、ミャンマーなどからの「非公式な」砂糖の流入および第三国経由での輸入量の増加が懸念されている。中央政府は2～5月、6500トン以上の「非公式に」流入した砂糖を押収しており、今後の増加を防ぐため、国境での監視を強化している。こうした中央政府による砂糖流入の取り締まりにより、ミャンマーでは中国向けに輸出不可能となった砂糖80万トンが市中に出回り、国内の砂糖価格が3カ月前と比べて3割ほど下落する事態を招いている。

（注1）海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に影響が生じているとして実施した調査であり、対象は、輸入量が急増した2011年以降で、粗糖の上位輸入先国であるブラジルおよび豪州ならびに精製糖の主要輸入先国である韓国などが対象国となっていた。

（注2）開発途上の約190の国や地域（フィリピンやパキスタンといった従来中国と関係の深い貿易相手国を含む）については、一定の条件を満たせば対象外とされている。

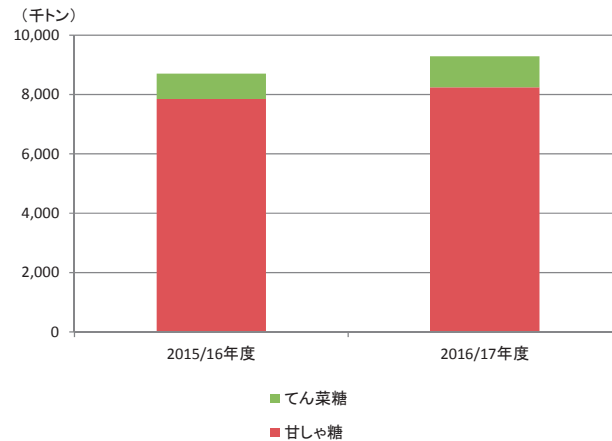
表4 中国の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (7月予測)	2016/17 (8月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,819	1,760	1,660	1,827	1,827	10.0
サトウキビ生産量	125,536	125,611	117,295	126,522	126,522	7.9
てん菜収穫面積	182	139	135	149	149	10.0
てん菜生産量	9,260	8,000	7,337	7,705	7,705	5.0
砂糖	生産量	14,476	11,474	9,459	10,097	6.7
	輸入量	4,054	5,354	6,199	4,513	▲ 30.8
	消費量	16,150	16,600	17,283	16,739	▲ 3.1
	輸出量	51	64	167	97	▲ 40.3
	期末在庫量	7,141	7,305	5,513	3,288	▲ 44.5
	期末在庫率	44.2	44.0	31.9	19.6	▲ 42.7

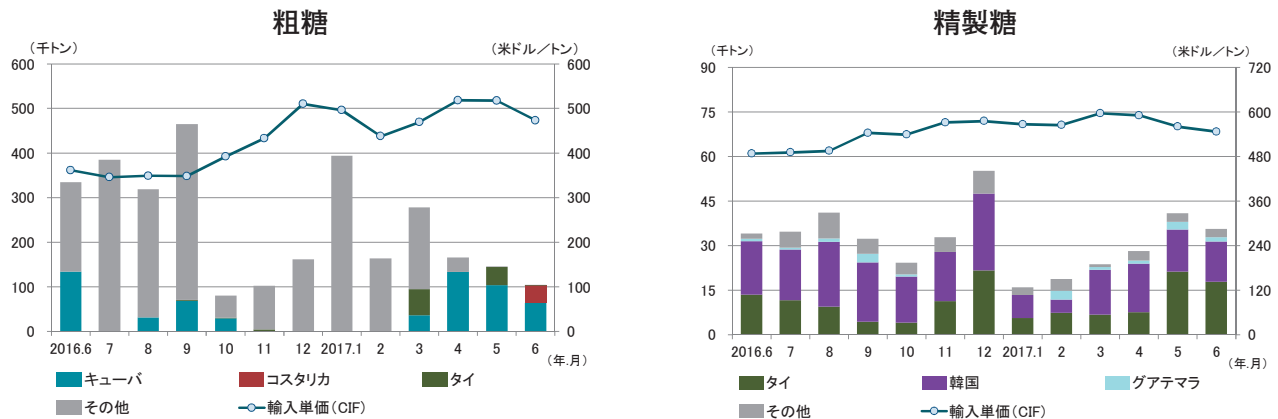
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, August 2017」

図3 中国の砂糖生産実績



資料：CSA
注：精製糖換算。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

E U

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：159万ha（前年度比10.8%増）
生産量：1億1218万トン（同6.7%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1694万トン（同12.8%増）
輸入量：297万トン（同20.9%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、 輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、てん菜収穫面積が159万ヘクタール（前年度比10.8%増）、生産量は1億1218万トン（同6.7%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表5）。2017

年10月以降の生産割当廃止を目前に、生産量上位国であるフランスやドイツでは、在庫増への懸念から栽培面積の拡大に慎重になっていた一方、ポーランドやオランダなどでは栽培面積を前年度から約2割増加させるなど、積極的に増産する動きも見られていた。記録的な生産量となった前々年度に比べ、

春先の低温や降雨のため単収は低下すると見込まれているものの、高い歩留まりなどにより前年度と比べて産糖量の増加が見込まれていることなどから、砂糖生産量は、1694万トン（同12.8%増）とかなりの増加が見込まれている。砂糖の増産や域内の砂糖価格の下落に伴い、砂糖輸入量は、297万トン（同20.9%減）と大幅な減少が見込まれている。

欧州委員会は7月12日、砂糖を含む農産物の短期需給見通しを公表した。これによると、2016/17年度のでん菜生産量は、1億700万トン（同5.2%増）と、この10年間で最低水準となった前年度からやや増加し、砂糖生産量は精製糖換算で1680万トン（同13.3%増）と、かなりの増加が見込まれている。また、生産割当制度の廃止に伴い、2017/18年度のでん菜生産量は、主にベルギー、フランス、ドイツ、オランダ、ポーランドが栽培面積を大きく拡大していることから、1億2790万トン（同19.6%増）、砂糖生産量は2010万トン（同19.6%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。これに伴い、EU域内の価格が下落し、国際価格との差が拡大することから、輸入量は、150万トン（同

49.0%減）と見込まれている。輸出量は、域内消費量が大きく変わらない中、域内供給量が増えるとともに、WTOの裁定により設けられた輸出上限が撤廃されることから、280万トン（同2倍）と見込まれている。ただし、輸出量は、国際価格に対するEU価格の動向に左右されるものとみられる。

なお、現地報道によると、2018年4月から英国で導入予定の糖類を含む飲料への課税^(注)について、ある大手飲料製造企業は、製品の調合を見直すことにより、課税対象となるのは、英国で販売される同社製品売上高の40%を占める2製品に限定されるとの見通しを発表した。

(注) 政府は2018年4月、特に子どもの肥満問題解決のため、100ミリリットル当たり5グラム以上の糖類を含む飲料（乳飲料や糖類が添加されていないフルーツジュースなどは除く）に対する課税を開始する。税率は、糖類の含有量が ① 100ミリリットル当たり5グラム以上8グラム未満の場合、1リットル当たり0.18ポンド（27円〈7月末日TTS：1ポンド＝149円〉）、② 100ミリリットル当たり8グラム以上の場合、同0.24ポンド（36円）と設定されている。

表5 EUの砂糖需給の推移

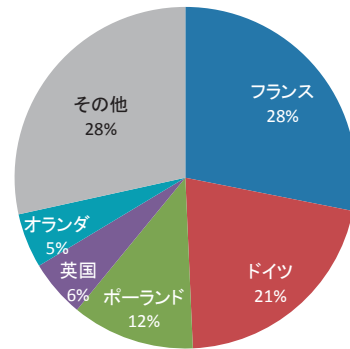
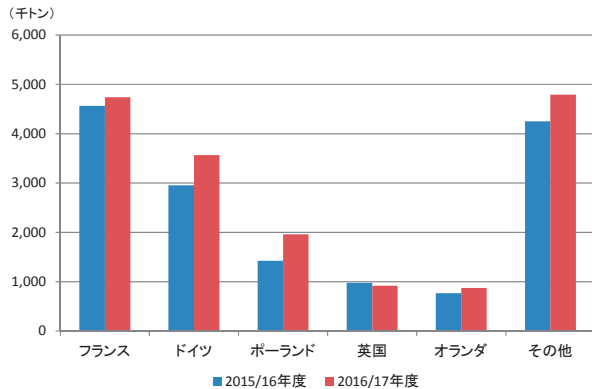
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (7月予測)	2016/17 (8月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,578	1,632	1,437	1,592	1,592	10.8
てん菜生産量	108,979	131,009	105,162	112,184	112,184	6.7
砂糖	生産量	17,123	19,147	15,011	16,938	12.8
	輸入量	3,944	3,456	3,750	2,887	▲ 20.9
	消費量	19,286	19,245	18,719	18,740	0.1
	輸出量	1,540	1,558	1,506	1,230	▲ 16.9
	期末在庫量	8,799	10,599	9,135	8,990	▲ 1.0
	期末在庫率	45.6	55.1	48.8	48.0	▲ 1.1

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, August 2017」

注：期末在庫量は、非食用などを含む。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見込みおよび生産割合



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2017年6月時点での予測値。

注3：2015/16年度は推定値、2016/17年度は予測値。

注4：生産割合は2016/17年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向（2017年8月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2016年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が52.2%（前年比13.2ポイント増）、タイが47.7%（同8.3ポイント減）と、この2カ国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はフィリピンを報告する。

豪 州

2017/18年度（7月～翌6月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：40万ha（前年度比1.8%増）

生産量：3556万トン（同0.2%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：531万トン（同7.5%増）

輸出量：400万トン（同0.8%増）

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに減少、輸出量はやや減少の見込み

2016/17砂糖年度（7月～翌6月）のサトウキビ収穫面積は39万ヘクタール（前年度比3.2%増）とやや増加し、生産量は3550万トン（同1.9%増）とわずかな増加が見込まれている（表6）。5～6月に収穫されたサトウキビについては、3月に襲来したサイクロンの影響により、製糖歩留まりの低下

が見られることから、砂糖生産量は494万トン（同2.2%減）とわずかな減少が見込まれている（注）。また、輸出量も、中国向けの減少などに伴い、397万トン（同4.4%減）とやや減少が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量はかなり増加、輸出量は前年度並みの見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は40万ヘク

タール（前年度比1.8%増）とわずかな増加が見込まれるものの、サイクロンの影響による単収の低下から、生産量は3556万トン（同0.2%増）と前年度並みにとどまると見込まれている。砂糖生産量は531万トン（同7.5%増）とかなりの増加が見込まれているものの、サイクロンの被害状況によっては、今後下方修正される可能性がある。輸出量は、生産量が増加するものの、中国向けの需要が減少すると見込まれることなどに伴い、400万トン（同0.8%増）と前年度並みが見込まれている。

豪州農業資源経済科学局（ABARES）が6月中旬に公表した2017/18年度の生産予測によると、サトウキビ栽培面積は38万ヘクタール（同2.2%増）とわずかに増加するものの、サイクロンの被害に伴い、砂糖生産量は、482万トン（同0.4%増）と前年度並みが見込まれている。輸出量についても、407万トン（同0.3%増）と前年度並みが見込まれ

ている。

豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）が発表した生産実績によると、5月下旬～8月中旬のサトウキビ圧搾量は1185万トンであった。なお、ASMCは先ごろ、2017/18年度のサトウキビ圧搾量見込みを3424万トンと上方修正している。

現地報道によると、サイクロン被害により、クイーンズランド州沿岸部のマッカイなど一部地域のサトウキビ収穫量は、例年よりも25%減少すると見込まれている。被害の復旧にはしばらく時間がかかる見通しであるというが、現時点で、収穫されたサトウキビの品質などに目立った影響は確認されていないという。

（注）豪州の砂糖年度は7月～翌6月とされているが、例年5～6月ごろから製糖が開始される。5～6月の数量は、前年度の数量に含まれる。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (7月予測)	2016/17 (8月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (7月予測)	2017/18 (8月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	329	363	381	393	393	3.2	400	400	1.8
サトウキビ生産量	27,136	32,360	34,827	35,500	35,500	1.9	35,556	35,556	0.2
砂糖	生産量	4,306	4,780	5,052	4,940	▲ 2.2	5,312	5,312	7.5
	輸入量	159	170	76	110	83.1	110	110	▲ 21.0
	消費量	1,345	1,337	1,298	1,355	▲ 1.5	1,355	1,355	5.9
	輸出量	3,066	3,687	4,152	3,995	▲ 4.4	4,000	4,000	0.8
	期末在庫量	1,162	1,088	766	400	▲ 22.3	466	662	11.1
	期末在庫率	86.5	81.4	59.0	29.5	▲ 21.1	34.4	48.8	4.9

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, August 2017」

タイ

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：141万ha（前年度比0.2%減）

生産量：9300万トン（同1.1%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1030万トン（同2.7%増）

輸出量：677万トン（同13.3%減）

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに増加、 輸出量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、141万ヘクタール（前年度比0.2%減）と前年度並みと見込まれる一方、単収が低下することから、生産量は9300万トン（同1.1%減）とわずかな減少が見込まれる（表7）。

しかし、砂糖生産量は、長引く干ばつの影響があったものの、製糖歩留まりの向上が見られることなどから、1030万トン（同2.7%増）とわずかな増加が見込まれている。また、輸出量は、中国向けの減少などに伴い、677万トン（同13.3%減）とかなりの減少が見込まれている。

タイ製糖協会によると、5月3日までに2016/17年度のサトウキビの圧搾は終了し、同年度のサトウキビ圧搾量は9295万トン（同1.2%減）とわずかに減少した。干ばつの影響によるサトウキビの減産に伴い、サトウキビ圧搾量が前年度比で8%減少した工場も見られた。

政府は現在、砂糖産業関連法の改正^{（注1）}に向けた手続きを行っている。この改正によって、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7：3の割合で分配する現行の収益分配方式、販売割当^{（注2）}、および政府が設定している国内砂糖価格は廃止されるとみられる。現地報道によると、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）^{（注3）}は5月中旬、各製糖企業に対し、国内供給用に、生産量の一定割合を常に在庫として確保するよう求めること、今後は、OCSBが国際価格を基に算出した基準価格を発

表することなど、改正の方向性について関係者間で合意に達したと明らかにし、改正法は11月までに施行される見込みであるとした。

また、現地報道によると、砂糖小売価格については、タイ商務省が法改正後の12月以降も引き続き監視するとみられる。現在、砂糖小売価格は、1キログラム当たり23.50バーツ（80円〈7月末日TTS：1バーツ＝3.39円〉）を上回らないよう管理されており、タイ商務省は毎月、基準価格（または参考価格）を公表することで、今後も小売価格が基準価格以下となるよう促すものとみられる。

現地報道によると、政府は7月下旬、糖類を含む飲料への課税制度を9月16日から導入すると発表した。政府は、糖類含有量に応じて課税する予定であるが、税率については未発表である。政府は、今回の課税制度導入の目的は、国民の健康増進であり、税収確保ではないとしている。課税に当たっては、飲料製造者が徐々に糖類を減らした製品を製造できるよう、6年をかけて、段階的に糖類含有量の上限値が引き下げられるものとみられる。

（注1）タイ政府は2016年4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補填金^{はてん}や、砂糖の販売割当および国内販売価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たり国際貿易協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、タイ政府は同年11月3日、ブラジルとの2国間協議の場に、同年10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）によると、改革案は現在、閣議レベ

ルで吟味されているが、公聴会を実施してから再提出するよう、OCSBへ返却されている。改革案は近いうちに閣議へ再提出される予定となっている。

(注2) タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

(注3) タイのサトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である3省（工業省〈製糖関係〉、農業協同組合省〈原料作物関係〉、商務省〈砂糖の売買関係〉）とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された「サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）」の事務局。

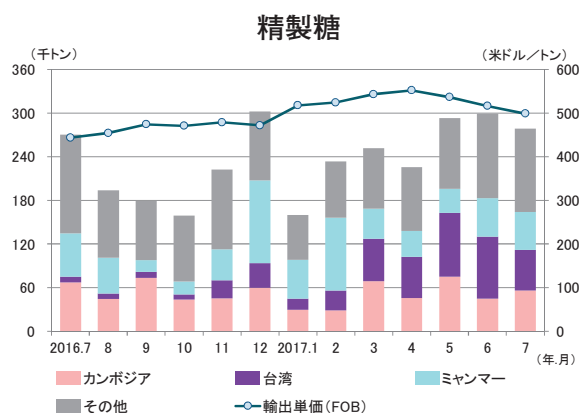
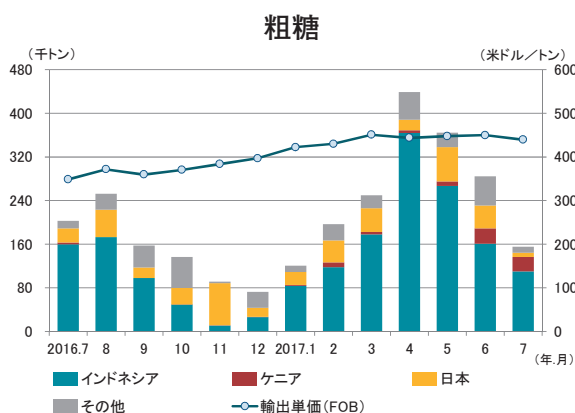
表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (7月予測)	2016/17 (8月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,322	1,403	1,412	1,408	1,408	▲ 0.2
サトウキビ生産量	100,096	105,595	94,047	93,000	93,000	▲ 1.1
生産量	11,677	11,579	10,025	10,295	10,299	2.7
輸入量	-	-	-	-	-	-
消費量	3,339	3,489	3,500	3,500	3,500	0.0
輸出量	6,457	8,071	7,805	6,841	6,770	▲ 13.3
期末在庫量	5,768	5,788	4,508	4,462	4,536	0.6
期末在庫率	172.8	165.9	128.8	127.5	129.6	▲ 100.0

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, August 2017」

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

フィリピン

2016/17年度（9月～翌8月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：42万ha（前年度比0.4%増）

生産量：3062万トン（同0.7%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：250万トン（同11.7%増）

輸出量：16万トン（同5.5%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、
輸出量はやや減の見込み

2016/17砂糖年度（9月～翌8月）のサトウキビ
収穫面積は42万ヘクタール（前年度比0.4%増）、

生産量は3062万トン（同0.7%減）と、ともに前年度並みと見込まれている。しかし、製糖歩留まりの向上が見られることから、砂糖生産量は250万トン（同11.7%増）とかなりの増加が見込まれている（表8）。

砂糖統制委員会（SRA）^{（注1）}が発表した2016年9月～翌7月の生産実績報告によると、サトウキビ圧搾量は2800万トン（前年同期比20.4%増）と大幅に増加し、粗糖生産量は250万トン（同11.7%増）とかなり増加した。

また、SRAは3月下旬、2016/17年度の砂糖の割当数量について、砂糖生産量のうち20%を国内供給向けから輸出向けに振り替えた^{（注2）}。SRAはこの背景として、米国向け輸出が停滞していることや、特に清涼飲料水用の中国産異性化糖の輸入の増加により砂糖在庫量の増加が見込まれ、国内価格の低下が予想されていることを挙げている。

一方、2016/17砂糖年度における砂糖輸出量は16万トン（前年度比5.5%減）とやや減少が見込まれている。SRAによると、7月末時点の輸出量は14万9082トンで、うち米国向けは13万6189トンとなっている。

なお、現地報道によると、砂糖業界からは、中国産異性化糖輸入の増加により、国内の砂糖価格が押

し下げられているとの不満の声が上がっていることから、SRAは政府に対し、フィリピン産砂糖への関税撤廃について中国政府に働きかけることを要求している。現在、中国では輸入する砂糖に、原則として15%の関税を課している一方、フィリピンでは中国から輸入される異性化糖は、無税となっている。

また、現地報道によれば、7月1日に可決された総合的な税制改革法案には、糖類を含む飲料への課税が盛り込まれている。税率は、使用されている糖類が国産・輸入の別によって異なり、国産糖が使用された清涼飲料水には、1リットル当たり10ペソ（23円〈7月末日TTS：1ペソ＝2.34円〉）、輸入糖や輸入異性化糖が使用された清涼飲料水には、同20ペソ（47円）が課税されることとなっている。牛乳や乳幼児用飲料、豆乳や100%果汁のジュースなどは課税が免除されることとなっている。

（注1）砂糖の供給管理政策など国内砂糖産業の管理・監督などを実施する政府機関。

（注2）2016/17年度の砂糖の割当数量は、国内生産量のうち、①6%を米国向け（特恵的な関税枠を有す）、②74%を国内向け、③20%を輸出向けに設定している。

表8 フィリピンの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (5月予測)	2016/17 (8月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積		435	435	420	422	422	0.4
サトウキビ生産量		31,874	32,369	30,849	30,619	30,619	▲ 0.7
砂糖	生産量	2,451	2,321	2,239	2,100	2,500	11.7
	輸入量	25	36	242	290	82	▲ 66.1
	消費量	2,369	2,436	2,300	2,350	2,200	▲ 4.3
	輸出量	369	47	168	112	159	▲ 5.5
	期末在庫量	666	541	554	434	777	40.3
	期末在庫率	28.1	22.2	24.1	18.5	35.3	46.7

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, August 2017」